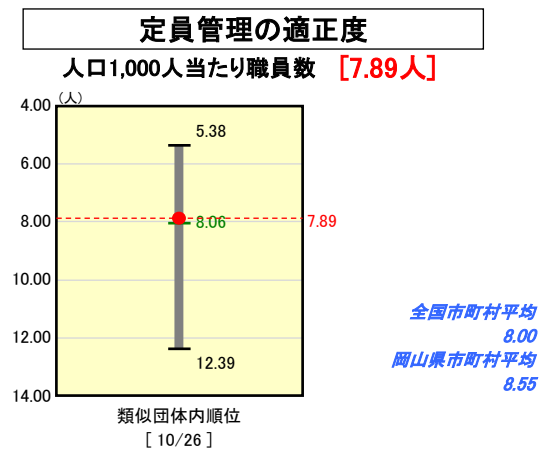
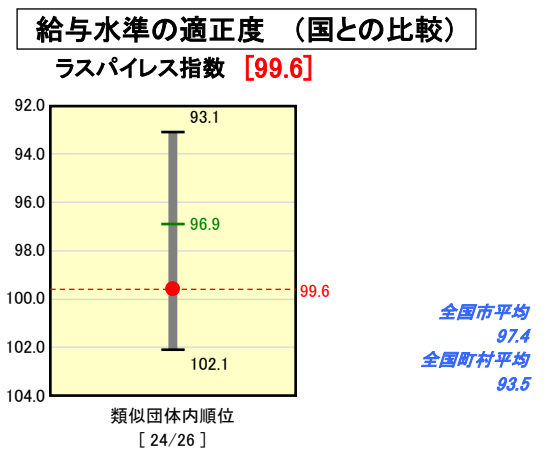
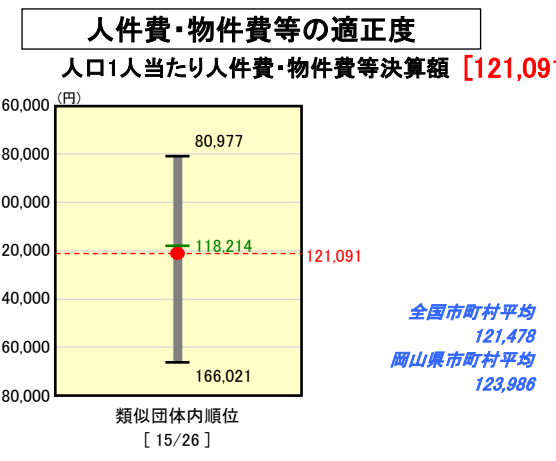
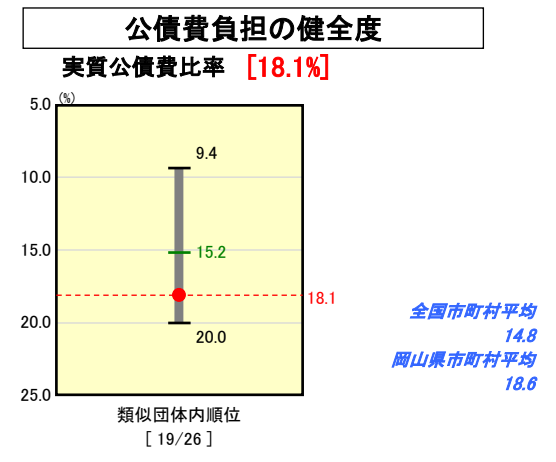
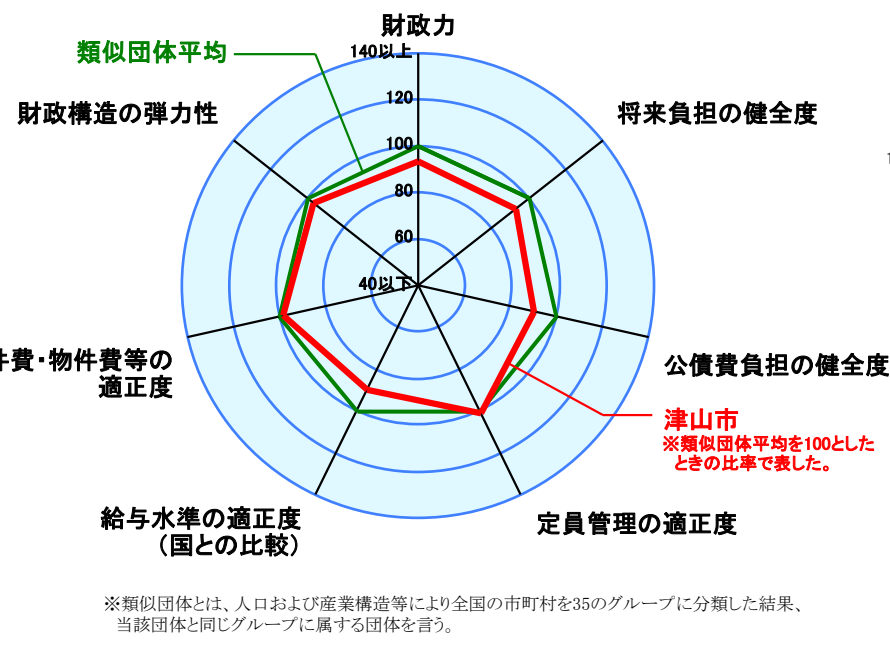
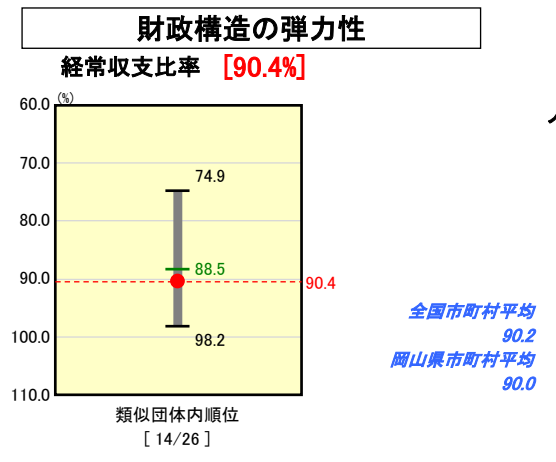
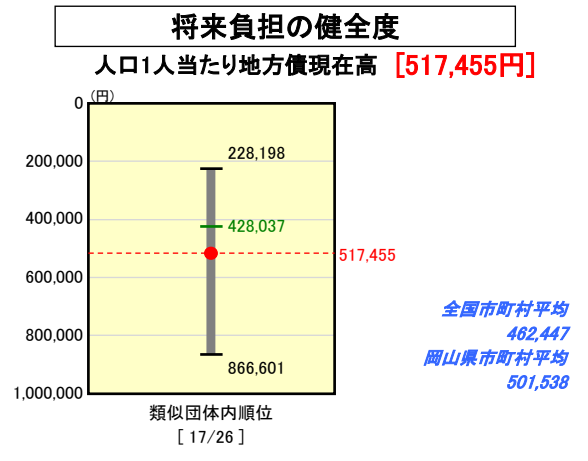
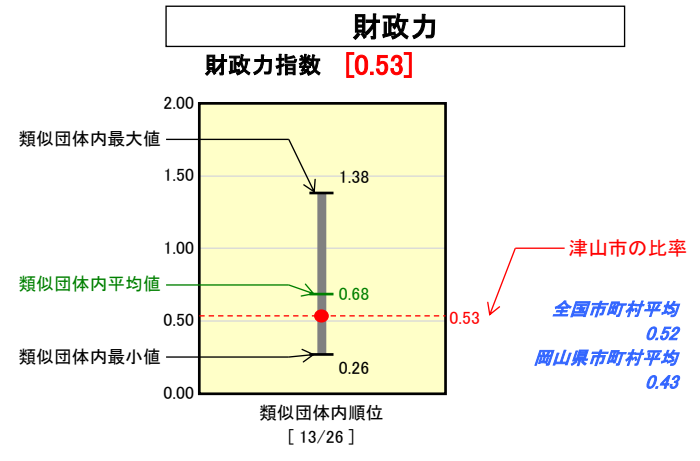


市町村財政比較分析表(平成17年度普通会計決算)

岡山県 津山市

人口	110,056	人(H18.3.31現在)
面積	506.36	km ²
歳入総額	48,310,194	千円
歳出総額	47,074,509	千円



※人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

分析欄

【財政力指数】
財政基盤の弱い団体との合併や景気低迷による税収減の影響を受け、合併前の平成15年度0.62であったものが、平成17年度0.53となっている。類似団体内平均を0.15下回るが、全国市町村及び県内市町村平均は上回る財政力にある。今後とも、企業立地の促進等産業振興を推進するとともに、市税等の自主財源の増加に努め、財政基盤を強化する。

【経常収支比率】
全国市町村及び県内市町村平均とほぼ同程度にあるが、類似団体内平均よりは高い状態にある。今後とも、行財政改革を踏まえ、市税などの一般財源の確保と徹底した事業見直しによる歳出の圧縮を図り、財政構造の改善に努める。

【実質公債費比率】
岡山県市町村平均よりは低いものの、全国市町村及び類似団体内平均より高い状態にある。今後は、事業の実施にあたっては交付税措置のある有利な起債の活用を図るとともに起債発行額の抑制など計画的な財政運営に努める。

【人口1人当たり地方債現在高】
岡山県市町村平均とほぼ同程度であるものの、全国市町村及び類似団体内平均よりは高い状態にある。今後の財政運営にあたっては、第4次総合計画の実行には特に配慮しながら、事業の選択と集中により借入額の抑制を図る。

【ラスパイルズ指数】
今回の給与構造見直しに伴う平成18年4月1日施行給料表改定に伴い、従来からラスパイルズ指数引上げ要因となっていた初任給及び20歳代前半並びに高齢職員の給与水準の引下げを行った。初任給部分については、国家公務員では改定が行われなかったが、今回の給料表見直しを機に高卒初任給を5,500円(▲3.7%)、短大卒を4,900円(▲3.1%)、大卒を3,900円(▲2.2%)引き下げた。また、高齢職員については、国家公務員が最大7.0%の引下げであったところを最大で7.85%の引下げを行い、勤続25年以上の職員の給与水準の引下げを図った。今後とも、給与水準の適正化に向けて取り組む。なお、職員給総額については、今回の給料表改定による昇給停止効果のほか、職員数削減、地域手当・寒冷地手当・住居手当・通勤手当の見直し、勤務時間延長に伴う時間外単価の引下げにより、平成18年度における人件費抑制効果は4億円を見込んでいる。

【人口1,000人当たり職員数】
市町村合併により、職員数が1,000名を超えることとなり、指数を引き上げることとなった。合併後10年間で140人(▲13.5%)の人員削減を図ることとしており、集中改革プランにおいても5年間で68名(▲6.7%)の人員を削減する計画であったが、定員適正化計画の見直しを行い、民間委託等アウトソーシングの推進と組織機構の見直しを図り、合併10年間で200人